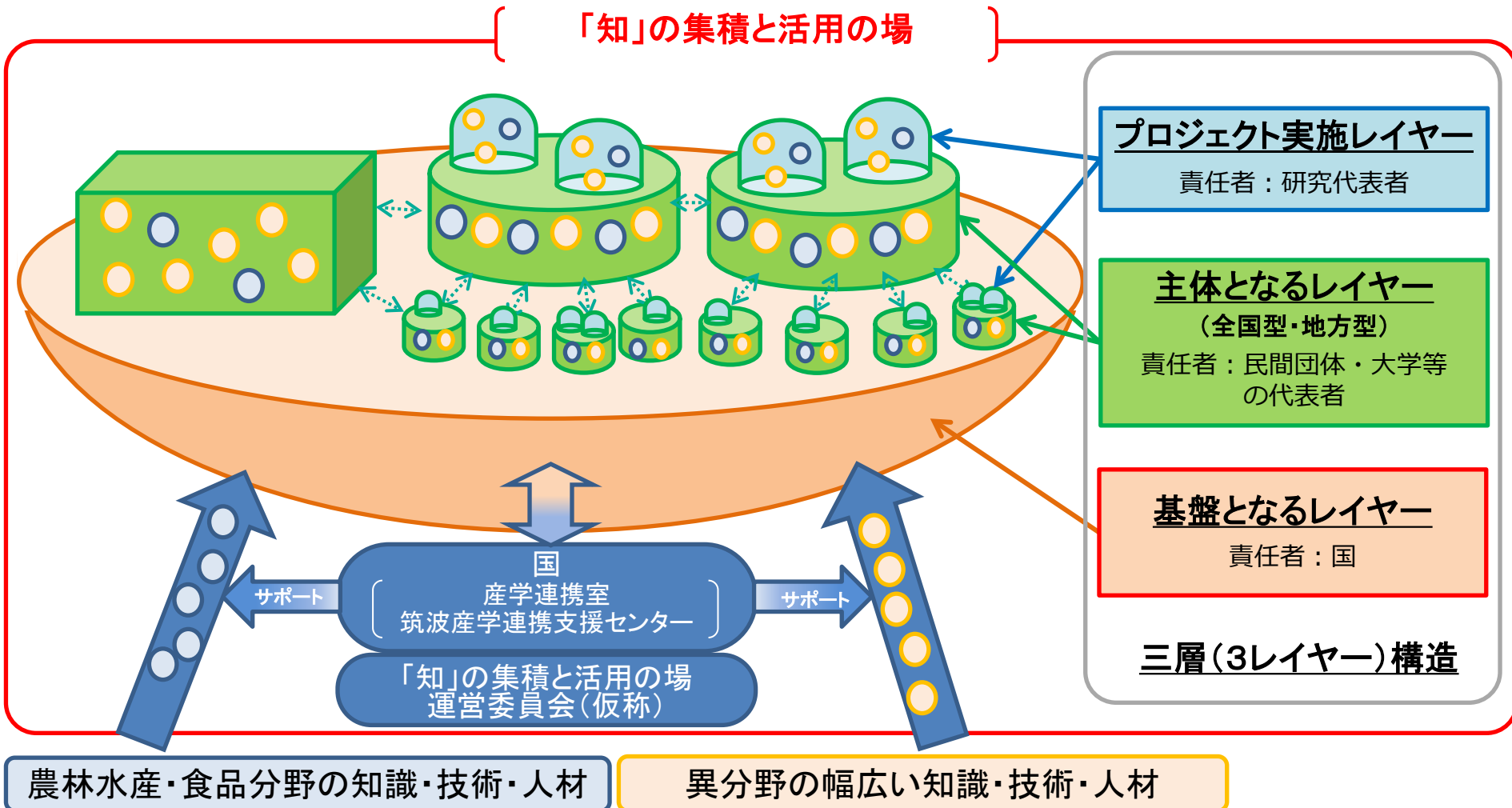


# 「知」の集積と活用の場の 運営体制の概要について (案)

## 「知」の集積と活用の場の全体イメージ(案)

- 「知」の集積と活用の場では、全てのステークホルダーが参画する「基盤となるレイヤー」、研究開発から事業化・商品化までの取組の中心となる「主体となるレイヤー」、主体となるレイヤー上で、個別課題に対応した研究開発に取り組む「プロジェクト実施レイヤー」の3層構造を想定。



# 「知」の集積と活用の場における各層の主な役割・業務について(素案)

	三層(3レイヤー)構造			
	<レイヤーⅠ>	<レイヤーⅡ>	<レイヤーⅢ>	<場の全体管理・評価>
	基盤となるレイヤー	主体となるレイヤー	プロジェクト実施レイヤー	「知」の集積と活用の場 運営委員会(仮称)
主な役割 業務	<p><b>&lt;参画者への情報発信&gt;</b> ・「知」の集積と活用の場の参画者に対し、主体となるレイヤーの研究成果やセミナー等の情報を発信 ・「知」の集積と活用の場の外部の者への情報発信・交流</p> <p><b>&lt;主体となるレイヤーのネットワーク化支援&gt;</b> ・主体となるレイヤーやプロジェクト実施レイヤー間のネットワーク化を推進</p>	<p><b>&lt;ニーズ・シーズのマッチング&gt;</b> ・セミナー、ワークショップ等の開催による開発ニーズ・技術シーズのマッチング、研究課題の具体化</p> <p><b>&lt;研究開発・事業活動支援&gt;</b> ・知財戦略、ビジネスモデル、技術基準等の策定</p> <p><b>&lt;プロジェクト実施レイヤーの支援&gt;</b> ・プロジェクト実施レイヤーにおける個別の研究開発プロジェクトに必要な人材・情報・技術の集積・交流</p> <p><b>&lt;情報発信&gt;</b> ・主体となるレイヤーの成果の情報発信・普及 ・新たな情報・技術・人材の集積促進</p>	<p><b>&lt;個別課題に対応した研究開発の実施&gt;</b> ・主体となるレイヤーの参画者からなるコンソーシアムを構成し、事業化・商品化につながる共同研究を実施</p> <p>・事業化・商品化の見込みのある研究開発プロジェクトへの資源の集中、オープンイノベーション等による研究開発の加速化</p>	<p>(有識者検討会) <b>&lt;主体となるレイヤーの評価&gt;</b> ・主体となるレイヤー及びプロデューサー的人材の活動状況・実績の把握・評価</p> <p>(国) <b>&lt;「知」の集積と活用の場の全体管理&gt;</b> ・「知」の集積と活用の場の全体のあり方の評価・検証</p>
運営主体	国	民間団体、大学等	民間企業、大学、研究機関等	学識経験者で構成
責任者	国	民間団体、大学等の代表者	研究代表者	
評価者	「知」の集積と活用の場 運営委員会(仮称)			—

# 主な参画組織に期待される役割等について(素案)

		主な取組主体					支援的役割
		生産者	民間企業	大学	研究機関	金融機関	地方自治体
想定される具体的な参画者		農林水産業者、農業生産法人、JA 等	メーカー、情報システム、流通・小売業者、試験分析サービス業者、等	大学、TLO 大学ベンチャー 等	国立研究法人、独立行政法人、地方公設試 等	普通銀行 (投資ファンド、クラウドファン、ベンチャーキャピタル等)	普及組織 行政部局 等
期待される主な役割		<ul style="list-style-type: none"> <li>生産現場の課題の提供</li> <li>研究成果のユーザーとしての評価・試用 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術シーズ等の提供</li> <li>市場動向の情報提供</li> <li>ビジネスモデルの提案 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術シーズ・研究ノウハウの提供</li> <li>専門的知見からの指導・助言</li> <li>研究施設・設備の提供</li> <li>人材の育成 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術シーズ・研究ノウハウの提供</li> <li>専門的知見からの指導・助言</li> <li>研究施設・設備の提供 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有望企業の紹介、企業間のマッチング 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究成果の実用化支援 等</li> </ul>
主な参画場面		<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題化に向けた検討(セミナー・ワークショップ)・事業計画策定への参画、実証試験へ参画 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題化に向けた検討・事業計画策定への参画</li> <li>研究開発の実施の際の人的・資金的支援</li> <li>出口(販路等)の確保 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題化に向けた検討・事業計画策定への参画</li> <li>研究開発の際の人的・資金的支援</li> <li>専門領域の課題に対する技術的サポート 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題化に向けた検討・事業計画策定への参画</li> <li>研究開発の際の人的・資金的支援</li> <li>専門領域の課題に対する技術的サポート 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画の策定支援</li> <li>必要な資金の融資 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域レベルの取組において関係者の各活動への参画・助言 等</li> </ul>
参画レイヤー	プロジェクト実施レイヤー	○	○	○	○	△	△ (実証研究等の場合に参加)
	主体となるレイヤー	○	○	○	○	○	○
	基盤となるレイヤー	○	○	○	○	○	○
場に参加するメリット		<ul style="list-style-type: none"> <li>生産現場での研究成果の活用</li> <li>新たな生産体系の確立、経営における収益性の向上 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなマーケット、ビジネスの拡大</li> <li>外部の研究開発・市場等に関する情報の収集</li> <li>単独では実施できない研究開発の実施</li> <li>外部との繋がりを持つ人材の育成 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究成果の効果的な活用(社会貢献)、現場の開発ニーズの把握</li> <li>研究の受入・成果の事業化による独自収入源の確保</li> <li>社会的評価の向上</li> <li>若手研究者の育成 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究成果の効果的な活用(社会貢献)</li> <li>現場の開発ニーズの把握</li> <li>研究の受入・成果の事業化による独自収入源の確保</li> <li>若手研究者の育成 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の産業・技術動向の情報収集(将来の融資先の開拓) 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場の課題解決の選択肢の拡大</li> <li>普及活動の活発化 等</li> </ul>

## 国内外の事業化・商品化研究における研究資金の負担について(未定稿)

資金名	オランダ (ワーヘニンゲン財団)	ベルギー (フランダースバイオ テクノロジー大学間連携研 究機関)	戦略的イノベーション創出 推進プログラム (JST:S-イノベ)
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワーヘニンゲン大学を中心にライフサイエンス、食品、健康、栄養、農業、バイオゲノミクス関連の研究機関、企業が集積し、農業技術、食品化学、動物科学、環境科学、植物科学の研究開発を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フランダース地方の4つの大学から研究者等が集まった大学間連携組織を核としたライフサイエンスクラスターであり、ナノテクノロジー、生命工学、燃料技術、メカトロニクス等の企業・研究機関が集結し、創薬・食品化学等の研究開発を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学技術の発展や新産業の創出につながる革新的な新技術の創出を目指したJSTの基礎研究事業等の成果を基にテーマを設定し、そのテーマのもとで実用化に向けて、長期一貫のシームレスな研究開発。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ステージⅠ・Ⅱ：応用基礎研究及び要素技術の研究開発</li> <li>②ステージⅢ：アプリケーションの開発(実証段階)</li> </ol>
申請者	(調査中)	(調査中)	企業と大学(産学共同申請)
拠出方法	(調査中)	(調査中)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ステージⅠ・Ⅱ：全額委託費</li> <li>②ステージⅢ：マッチングファンド(JST:企業=1:1)<sup>注</sup></li> </ol>

注:バイドール法適用で、研究開発による知的財産権は、発明者の所属機関に帰属。